

つるがだい はるとり
鶴ヶ岱公園・春採公園 (旧釧路公園) (釧路市)



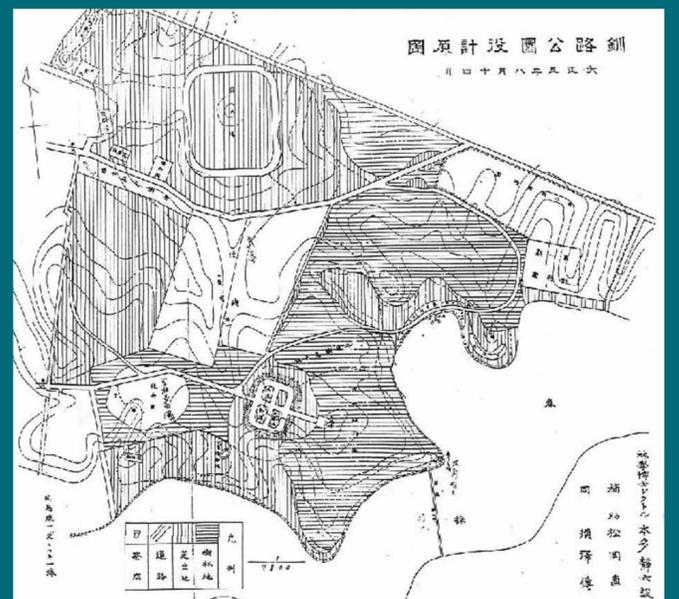
鶴ヶ岱公園のチューリップまつり

分離され、自然度の高い緑地とシンボリック公園へ

1916(大正5)年に、本多静六博士により春採湖を含む釧路公園として設計されたが、その後の都市化など情勢変化により、1962(昭和37)年に都市計画の見直しにより春採湖を中心とした春採公園と、造営されたひょうたん池を中心とした鶴ヶ岱公園に分離されている。

春採公園は、国指定の史跡「春採台地竪穴群」や天然記念物「春採湖のヒブナ生息地」などを包含し、また一部には自然林が残る自然度の高い緑地として貴重である。

鶴ヶ岱公園は様々な施設配置の歴史を持ち、今日、釧路市におけるシンボリック公園として多くの市民が集まる利用度の高い憩いの場となっている。当初計画の痕跡としては不透明な点はあるが、一つの公園として計画され、分離しながらも並立して存在する価値、また極めて利用度の高い緑地となっている点が評価される。



本多博士による当初の設計図

概要

名称	鶴ヶ岱公園・春採公園 (旧釧路公園)
所在地	釧路市
管理者	釧路市
規模	地区公園 6.1ha・総合公園 68.6ha
種別等	都市公園 (地区公園)・都市公園 (総合公園)
計画年	1916 (大正5) 年
告示年	1951 (昭和26) 年・1954 (昭和29) 年都市公園告示



春採公園の航空写真